

町立博物館事業について

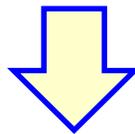
- 🍷 博物館整備の目的
- 🍷 博物館建設予定地
- 🍷 博物館完成予想図
- 🍷 伊礼原遺跡整備の方向性
- 🍷 博物館整備の方向性



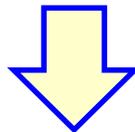


博物館整備の目的

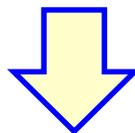
北谷町は、地域の住民・事業者の皆様の協力を得ながら、
商業地、観光地を備えた、住みやすいまちとして発展



先の大戦により色々なものが失われ、**歴史・文化・自然の継承・発信が大きな課題の一つ**となってきた背景がある



伊礼原遺跡と連携し、地域の特徴を活かした博物館整備を推進し、
歴史・文化・自然の継承・発信という、本町の課題の一つの解決を図る



潜在する地域資源の再発見

北谷町のまちづくりをステップアップ



博物館建設予定地



伊礼原遺跡

博物館予定地

北谷町役場

国体道路

国道58号

博物館完成予想図

国指定史跡「伊礼原遺跡」と連携した博物館整備を進めます。

伊礼原遺跡

敷地面積：約17,000㎡
県内随一の縄文遺跡として、
平成22年に国指定史跡となりました。
現在、史跡公園として整備を進めており、
令和4年度末供用開始予定です。

町立博物館

敷地面積：約6,000㎡
建築面積：約1,800㎡
延べ床面積：約2,300㎡
階数：2F
令和5年度末供用開始予定です。



イメージ図

※デザイン等多少の変更が生じる場合がございます。



伊礼原遺跡整備の方向性

国指定史跡「伊礼原遺跡」と連携した博物館整備を進めます。

○伊礼原遺跡整備事業

・伊礼原遺跡の特徴

Point 1 連続した生活史の貴重性

縄文時代前期～近代までの約7,000年の生活史が窺え、とりわけ南西諸島における縄文時代の4,000年間の文化が集約されてみてとれるのは県内で伊礼原のみです。

Point 2 縄文時代の海を渡る交易の足跡

九州・本州との交易を伺わせる品々が多数発見され、その量・質ともに県内随一となっています。また、その対価と考えられる貝や骨製の装飾品等が数多く出土しました。

Point 3 いにしえから受け継がれる豊かな自然

遺跡の地層からドングリ等の植物や動物、魚介類を食糧とした痕跡が出ており、山の幸と海の幸に恵まれた、豊かな自然環境であったことがわかりました。

・伊礼原遺跡整備の方向性

遺跡整備では、発掘調査から明らかになった**当時の自然の様子や集落の様子を再現**します。

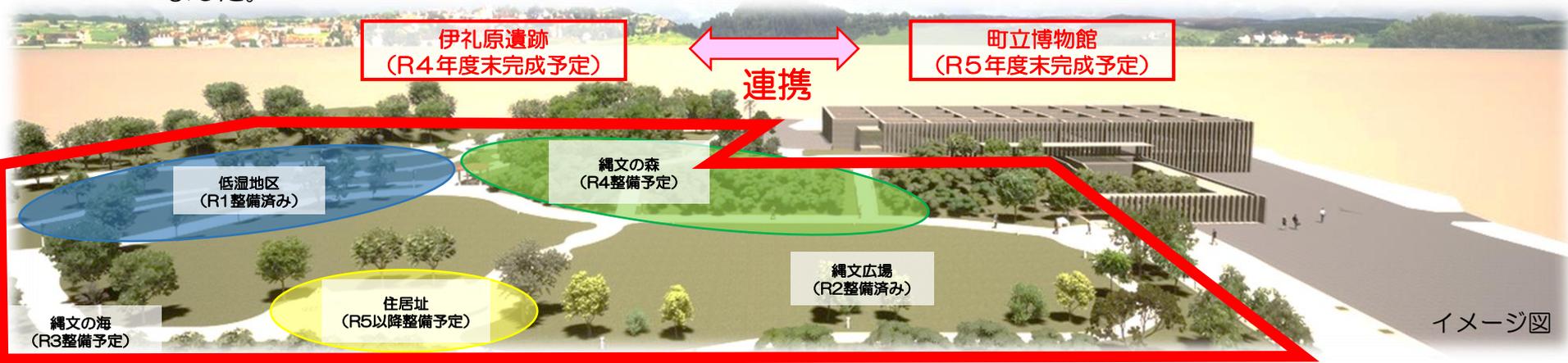


今は無くなってしまった多くのドングリの森（縄文の森）を再現します。



現在も残る湧水、その周辺に広がっていた湿地環境をサガリバナ群落を中心に再現します。

竪穴住居址が見つかっており、これら一部を再現する予定です。





博物館整備の方向性

国指定史跡「伊礼原遺跡」と連携した博物館整備を進めます。

〇町立博物館整備事業

・博物館整備の基本コンセプト

北谷町の歴史・文化・自然を未来につなぎ、未来に活かす、北谷・文化発信拠点

・博物館の特徴

Point 1 縄文時代の生活と自然環境を表現

沖縄では他にない、縄文時代の人々の生活、いにしえから受け継がれる自然環境にスポットを当てた博物館。

Point 2 隣接する屋外のフィールドを活用

博物館に隣接する「伊礼原遺跡」、「西海岸の海」、「まちなかに残る森」等を活用した展示、プログラムを展開。

・博物館の理念

町民との協働と他の町内施設との連携による企画・運営

町民が主体となった自主的な活動の支援

① 体験できる

② 学べる

自発的・能動的な活動が展開できる博物館へ

③ 探究する

④ 観光資源

伊礼原遺跡を主軸としながら町の歴史や文化、自然に関する調査・研究・展示
町の歴史や文化、自然に対する魅力を醸成するとともに、新たな地域文化の創造、人材育成

北谷町の魅力を広く発信し町民と多様な人々の交流の場の創出。

伊礼原遺跡
(R4年度末完成予定)

町立博物館
(R5年度末完成予定)

連携

低湿地区
(R1整備済み)

縄文の森
(R4整備予定)

住居址
(R5以降整備予定)

縄文広場
(R2整備済み)

縄文の海
(R3整備予定)

イメージ図